

🌱 生物多様性への配慮

環境省「自然共生サイト」に認定後、OECM※に登録

長谷工コーポレーションは、長谷工テクニカルセンターを環境省の「自然共生サイト」に申請し、「認定」を取得しました(2023年10月6日)。

生物多様性については、グローバルな目標として、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする「30by30」が掲げられています。長谷工コーポレーションは、日本における「30by30」に資する施策である「自然共生サイト」に、2022年度の試行事業から参画して

おり、この度本認定取得に至りました。また、環境省により、OECMとして国際データベースに登録されました。



長谷工グループといたしましては、本認定を取得したことにより、より一層、生物多様性の価値の維持又は質の向上を企図し、日本における30by30目標の達成に貢献していきたいと考えています。

※ OECM：国等による保護地域ではないが効果的に自然が守られている場所

TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)提言に即した開示への取り組み

長谷工グループは、2023年11月よりTNFD*の理念に賛同し、TNFDフォーラムに参画しています。そのような中、長谷工グループは、本フォーラムに参画しながら、社会的にも重要度が高まってきているTNFD最終提言に基づく分析を行い、当該提言に沿った開示準備を進めています。これか

らも、より一層自然資本・生物多様性に関する適切な情報開示を進め、様々なステークホルダーの皆様との信頼関係の醸成と持続的な企業価値向上に努めていきます。

※ TNFD：自然関連の情報開示を行うために必要となる枠組みの構築を行う組織。自然資本や生物多様性に関するリスクや機会の評価について開示を推奨。

「いきもの共生事業所認証(ABINC認証)」の取得

一般社団法人いきもの共生事業推進協議会(ABINC)では、自然と人の共生を企業活動において促進することを目的とし、企業の施設(工場、オフィスビル、商業施設、集合住宅等)の生物多様性に配慮した緑地づくりや管理・利用などを「いきもの共生事業所認証(ABINC認証)」として評価・認証しています。

2023年度、長谷工コーポレーションが設計・施工を手が

けた5件で「いきもの共生事業所認証(ABINC認証)」を取得しました。

生物多様性配慮への社会的関心が高まる中、生物多様性に配慮した提案をすることで、都市の自然環境の改善に貢献していきます。



生物多様性保全活動

長谷工グループでは、「長谷工グループ生物多様性行動指針」に則り、従業員のボランティアによる生物多様性を育み、守る活動を継続して実施しています。

「長谷工の森林(もり)」プロジェクト

「長谷工の森林」プロジェクトは、80周年記念事業の一環で、「社会貢献」「未来志向」「地域との連携」をテーマに長野県茅野市、和歌山県田辺市の2拠点で、森林保全・整備活動を行っています。地域の皆さまとともに、グループ全体で積極的に取り組んでいきます。

長野県茅野市「長谷工の森林」森林整備活動

長野県茅野市の「長谷工の森林」は、2017年に活動をスタートしました。面積は約13haで、七ヶ耕地産産区をはじめ長野県林務部、諏訪地域振興局の協力のもと、社員・家族の手で間伐を中心とした整備活動を継続的に行うことで森林保全に努めています。活動をきっかけとして、地域の皆さまとの交流や、社員や家族が自然環境について学び、親しむ機会にもなっています。

2023年度は長谷工グループ社員とその家族を含む78名

が参加し、小木の伐採や倒木の片付けなどの森林整備活動を行いました。

和歌山県田辺市「長谷工の森林」森林整備活動

和歌山県田辺市の「長谷工の森林」は、2018年に「長谷工の森林」プロジェクト第2弾として活動をスタートしました。面積は約3haで、中辺路町森林組合をはじめ地域の皆さまの協力のもと、社員・家族の手で植樹や下草刈りを中心とした整備活動を継続的に行うことで森林保全に努めています。活動をきっかけとして、地域の皆さまとの交流や、社員や家族が自然環境について学び、親しむ機会にもなっています。

2024年度は長谷工グループ社員とその家族を含む53名が参加し、歩道整備やウバメガシやアラカシなどの苗木を700本植える活動を行いました。